



「ことばで心をつなぐこと」

NHK広島放送局 チーフアナウンサー 清川 徹

先日読んだ新聞に、サトウサンペイさんの四コマ漫画が載っていた。お母さんが、ごろ寝をしているお父さんと息子に「たまには父と子の会話をしなさい」と言う。父が息子に「この頃どうしてるの？」息子は「あいかわらずですよ」と答える。今度は息子が父に「会社のほうはどうですか？」父は「まあまあですね」と答え、会話は終わってしまう！相手のことを知りたい、自分のことを伝えたい、分かり合いたいという気持ちや思いがなければ、心の通う会話は成り立たない。日頃、会話の少ない親子が改まって話そうとしても、一問一答で終わってしまうのは仕方ない。

アナウンサーの仕事は、大きく分けて<読む><話す><聞く>の三つがある。中でも一番難しいのは、<聞く>つまり、インタビューだと感じている。相手の心を開き、本音で話してもらうためには、自分がどんな人間かを知ってもらい、分かってもらいことから始まって、時間をかけて信頼関係を築くことが必要だが、私たちのインタビューは一回勝負である。相手の気分等によってはうまくいかないことも多い。聞き方によっては「物事を知らないな」と思われ、自分の未熟さを思い知らされることにもなる。仕事として聞く

のではなく、一人の人間として「あなたに聞きたい」「あなたのことを教えてほしい、理解したい」という強い気持ち、熱意、思いをもって相手に向き合うことが大事なのではないかと思っている。

インタビューの過程で「本当に自分のことを知りたいんだな」と思ってもらったら大体うまくいく。相手が心にしまいこんでいる、その人しか話せないような言葉を引き出すことができた時「やったー！」と思わず声をあげたくなる。これが、まさにやりがいのなのだ。

私たちは、インタビューのとき、事前に何をどう聞くか、多くの<問い>を用意する。しかし、その場に臨んだら、相手の話じつと耳を傾け、話の流れに身を浸し、その流れに沿った的確な言葉の問いをぶつけていく。つまり、用意した質問はすべて捨てるのである。相手の話を聞きもらすまいとすれば、共感や納得や疑問の言葉を相手に投げ返すことができる。相手が答えようのない「この頃どうしていますか」「仕事のほうはどうですか」など抽象的な質問は論外なのだ。

さあ、あなたは、日頃、子どもにどう向き合っていますか。本当に子どもの話を聞いていますか。子どもにどんな言葉を投げかけていますか。

—もくじ—

○巻頭言 P.1

○研修講座だより(3)..... P.2~4

○教育情報の紹介・コラム P.5

○教育センターひろば P.6

研修講座だより (3)

幼稚園教育講座

講座の主題

遊びの分析と保育の改善

指導者

広島市立上緑井幼稚園教諭 石田 栄子

講座の概要

「一人一人の幼児が友達とかかわり合いながら、表現することの楽しさを味わう」これは、表現遊び『野菜パーティ』の主なねらいです。幼児なりの見立てや、楽しんでいるイメージの世界を広げるために講じられた環境の構成や、援助の工夫の一部を以下にまとめました。表現遊びの過程で表れた幼児の行動や発話、行動の志向性を教師が体全体で感知し、分析・判断して保育に生かした実践の一場面です。

<事例>

遊びの時間に、A児たちは発表会で着る服の飾り付けをしていた。できた服を着て満足する。そのうち、参観者に見せなくなったようで「劇をしよう」と友達を誘いに行く。①教師はA児たちに「舞台を使ってもいいよ」と言葉をかける。A児たちは早速舞台に行き、幕を引いて何度も発表会の練習をしていた。②A児たちの「ピアノを弾いて」の言葉に教師は応える。次第に声が大きくなり、自信に満ちた表情に変わっていく。
③遊んだ後の話し合いの場面では、A児たちは誇らしそうに自分の服を見せながら、工夫したことや舞台上で練習したことなどを次々と話していた。

<援助の意図と行動>

①では、幼児の「劇をしよう」の発話等から、遊びを発展・活性化させる言葉かけが行われています。
②では、幼児の要求を受けとめ、幼児が興じているイメージの世界を広げるための援助行動が即座に行われています。
③では、幼児の楽しんだ世界、またその喜びを共有し合える場が設定されています。

幼児の遊びを育てるために、教師は、遊びの中に表れている幼児の発話や行動等の状況とともに、その背景や理由を時間的・空間的・人間関係的などの枠組みから直観的にとらえ、環境の再構成や援助の工夫を講じています。これらには、適時性（タイミング）も重要な要素となっています。広島大学の山崎晃教授は、講座1日目の講義で、幼児は教師の遊び方などを模倣して遊びを育てていること、遊びの中に幼児に挑戦する余地を残しておくことの大切さを話され、このことがさらに遊びを育てると強調されています。

総合的な学習の時間講座

講座の主題

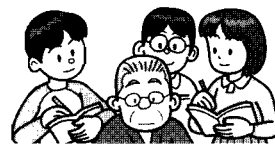
総合的な学習の時間の充実とポートフォリオの活用

指導者

広島市立安佐北中学校教諭 小坂 剛

講座の概要

講座2日目は、安佐北中学校の授業を公開していただきました。同校では、総合的な学習の時間を「ひろしま学」と名付け、中高一貫教育校という特色を生かして、系統的な学習活動を進めています。



「ひろしま学」とは？

- ① 身近な地域の学習環境や教育力を活用した学習です。
- ② 学校教育全体の中で自己実現をめざすための一翼を担う学習と位置付けています。

学習内容は？

地域の自然観察、まちの活性化
茶の湯とひろしまの文化
レトロバス物語
ひろしまで働く人
ひろしまの方言と民話 など
地域の特徴やよさを生かした
題材を取り上げています。

学習の進め方は？

- ① 地域の歴史、自然、社会・文化についての探求活動を行っています。
- ② 町の活性化のための参画(加)活動を企画し、実行しています。
- ③ 活動の成果(事中・事後)を資料化し、交流会・発表会を行いました。

学習の実際 「可部の町をもっと元気にしよう！」

生徒の活動の様子からの一例 ～地域のお菓子屋さんとかかわりの中で
“お菓子グループ”の生徒たちは、地域に古くからあるお菓子屋さんを何度か訪ね、聞き取り調査活動を行いました。お店の人となかよしになり、自分たちでもお菓子を作りたいようになった彼らは、自分たちの考えたお菓子を作ってもらえるようお店の人と交渉し、実際に商品化し店頭にも並べることができました。
生徒たちは、この活動を通して大きな自信を得ることができました。

本実践は、身近な地域のことを取り上げ調べることにとどまらず、生徒自らが町の活性化のための活動に参画することを通して、地域に主体的にかかわろうとする態度や自分たちも貢献できたという達成感を育むことができたという点で、有意義な活動となっていると感じました。

10～12月に実施した研修(一部)の概要をまとめました

小学校家庭科教育講座

講座の主題

基礎的な知識・技能の習得と「生活に役立つ物の製作」の題材・評価

指導者

広島市立仁保小学校教諭 円並地 利江

講座の概要

講座1日目に、広島大学の伊藤圭子助教授から、「生活に役立つ物の製作」の領域の指導において、安全面に十分留意しながら課題解決型の学習を進めることのよさを学びました。2日目の授業は、5年生の「作って楽しく使おう～ミシン縫いの名人になろう～」の導入でしたが、児童がミシンのよさに気づき、自ら製作しようとする実践的な態度の育成をめざした様々な工夫が見られました。

<指導計画の工夫>

- ミシン縫いの最初に、手縫いとの違いやミシンで布が縫える仕組みを発見する場を設定することによって、児童が楽しみながら基礎・基本を身に付けるとともに、「ミシンって便利なんだ」「使えるようになりたいな」という意欲を喚起させる指導計画になっている。
- 単元の構成が、ミシンのよさを理解した上で、自分の製作したい物を考え、ミシンや既習の手縫いのよさを活用して製作することができるようになっている。

<学習環境の工夫>

- 資料コーナーを設け、ミシンの使い方の図やビデオを用意し、困った時には自分で調べることができるようになっている。
- ミシンの絵や注意事項等は、児童に見えやすいように、大きな図表にし、情報が視覚的に提示されている。この図表が、あとから資料コーナーで活用できるようになっている。

<学習展開時の工夫>

- 安全面のルールについて全員で確認する。ミシンの各部の機能については、「スタート・ストップボタン」「布おさえ」は全員で確認し、他は児童が自ら調べて機能を探る展開となっている。
- 児童が、どこも機能をも自分たちで調べればよいかをわかりやすく図で表した学習カードが用意されている。

児童は、役割分担をしてペアで1台のミシンを使い、学習時のルール（「ミシンを操作している人の体に触らない」「針の正面に座る」等）を守って活動し、安全面にも十分な配慮がされていました。自ら操作したことを基にしてミシンの各部の機能について意見を交流し、学習の終末時には、それらの意見を教師が児童の前で演示して確認することにより、児童は、機能についての理解を深めるとともにミシンのよさを改めて感じ取ることができました。児童の思いを生かした作品づくりへの意欲を高める学習でした。

社会教育施設職員研修講座

講座の主題

社会教育施設における事業の企画と評価

講師

有限会社レボ・リユーション
代表取締役 河野上 和廣

講座の概要

事業を進めていくには、発想力・企画力・実行力に加えて、事業の効果性を多角的に把握し、事業改善を図っていくための評価力等が必要です。次のような、発想を豊かにするトレーニングをしてみましょう。

「発想を豊かにするトレーニング」

- ① 「古新聞」「ペットボトル」の再利用方法を、それぞれ制限時間1分で、自由に発想して10通り書き出してみましょう。
- ② 「シルバー」というキーワードから連想、発想したものを、単語にかかわらず1分間ですべて書き出してみましょう。
- ③ 「大きくなったらいいもの」「小さくなったらいいもの」をそれぞれ3分間で、自由に発想して書き出してみましょう。

「シルバーをキーワードにした発想のカテゴリー」

水平思考



垂直思考

①は、先入観・固定観念を取り除くトレーニングの一つです。②は、「老人・介護」のようなイメージ（垂直思考）をもって考えがちですが、物質的なものから感覚的なものまで幅広く発想（水平思考）することを促します。③は、空想の「楽しさ」や「好奇心」を誘発させるアイデアを考える入り口となります。

ものごとを企画・調整していくには、こうした自由な発想を整理し秩序づける思考も求められ、両者がバランスよく柔軟に発揮されることが大切です。これらのワードトレーニングは、社会教育施設における事業の企画と評価に限らず、学校・園の教育活動の見直しにも応用できるものだと思います。

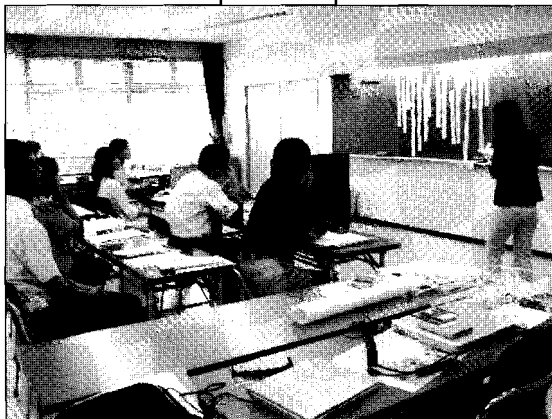
1年間こんな研修をしました！



教職経験11年目の小・中・高・養護学校の先生方が、「学習指導」「生徒指導」等の実践的指導力の一層の向上をめざして、1年間の研修に取り組みました。夏季休業中においては、学級経営案や学習指導案の作成、模擬授業の実施、生徒指導についての事例研究などに熱心に取り組んでおられました。また、冬季休業中には、研修のまとめに向けて、成果と課題の発表会を行いました。その内容の一部を紹介します。

広島市立亀崎小学校 藤井 達也 教諭

校内研修として、国語の研究授業（俳句）を行いました。児童は「なぜ、『古池に』ではなく『古池や』なのか。」という課題を自分たちで設定し、話し合いを通してお互いの考えを出し合いました。その結果、言葉の一つ一つに鋭く着目し、考えていく児童が増えてきました。このように授業を変えることができたのは、夏季休業中の教育センターでの研修において、じっくり教材研究ができたことと、模擬授業や協議会を通して、授業についての建設的な意見交流ができる仲間がいたおかげだと思います。この研修は、忘れかけていた授業の基本を思い出させてくれました。



模擬授業の様子

広島市立中広中学校 福原 宏 教諭

この10年経験者研修は、研修期間が長く、研修が始まった当初は、大変だなと感じることもありました。しかし、今振り返ってみると大変充実したものでした。特に、模擬授業では、指導担当の先輩の先生から適切なアドバイスをいただきながら指導案を作成したり、生徒役になって、今までとは違った角度から他の先生方の授業を振り返り、新たな発見をしたりするなど、これからの授業づくりに向けて手応えを感じることができました。そして、研修を通して何よりも嬉しかったことは、同期の仲間と久しぶりに交流し、お互い励まし合い、高め合う研修になったことでした。

広島市立広島工業高等学校 小川 雅彦 教諭

教育職員として転職した私は、前職での10年経験時にもひと通りの仕事を体得しました。しかし、入社後、ひたすら仕事に追われる日々を過ごす内に、10年も経てば、仕事に慣れると同時に、自分に対する甘えや自分勝手な思い込みで仕事をすることもあり、このままではいけないと感じたことを思い出します。中堅の意義から、この時期に自己を見つめ直すことは、職種に関係なく大切なことだと思います。

模擬授業で明確になった授業改善の視点等を、今後の教育実践の場で生かしていきたいと思っています。



カウンセリング演習(ロールプレイ)の様子

広島市立広島養護学校 瀬戸 幹夫 教諭

「虫の目、鳥の目」という言葉があります。物事を目の前だけ見るのではなく、虫の目になって分析的に細かく見る「ミクロ」の視点と、それとは逆に、鳥の目になって、時間や空間的に広い位置で相対的に見る

「マクロ」の視点の二つが、特別支援教育においても大切だと考えていました。今回の研修で、学習指導案について細かく分析したり、自閉症研究の歴史や欧米との比較を学んだりしたことで、その思いをさらに強くすることができました。

今後も、「ミクロ」と「マクロ」の二つの視点から実践を積み重ねていきたいです。

アンケート集計システムの紹介

前回の所報で、アンケート集計の概略についてお知らせしましたので、今回は、その活用手順等についてもう少し詳しくお知らせします。

(1) ユーザ登録の申請

アンケート集計システムを使用するには、アンケートを実施する前に、内部 Web ページからユーザ登録申請を行い、事前にユーザ ID とパスワードの取得を行う必要があります。この処理には、1週間程度の時間が必要になる場合があります。ユーザ ID とパスワードは、教育センターのサポートデスクから、申請時に入力した e-mail アドレス宛に送付されます。

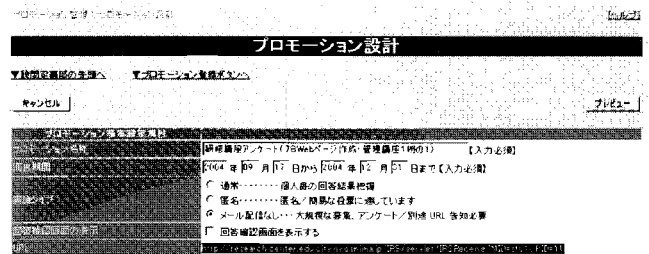


(2) 使用するパソコンの確認

使用するパソコンは、広島市教育用ネットワークに接続されている必要があります（家庭からの接続はできません）。

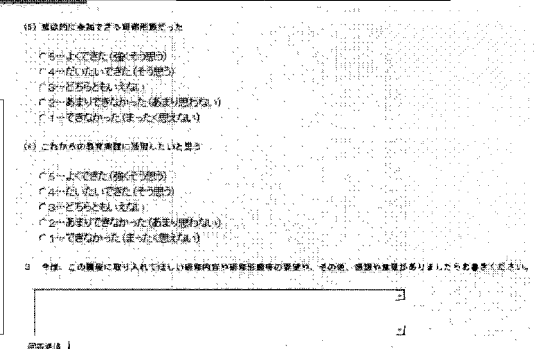
(3) アンケートの作成

教育センターの内部 Web ページから右図の A → B のボタンを順に押し、取得した ID とパスワードを入力すると、右図のプロモーション設計のページが表示されます。



アンケートは次のような設問形式に対応しています。

- 自由入力（例文 あなたの考えを書いてください。）
- メニュー選択
（例文 該当するものをメニューから選んでください。）
- 単一選択（例文 該当するものをひとつ選んでください。）
- 複数選択（例文 該当するものすべて選んでください。）
- 日付入力（例文 生年月日を入力してください。）



(4) アンケートの実施

プロモーションの設計画面にアンケートページの URL が表示されます。これを Web ブラウザに入力するとアンケートの回答画面が表示されます。右の①～③の形態で実施できます。

授業評価としての利用だけでなく、各学校へのアンケート、職員への総括アンケートなど、様々な使い方が考えられます。

- ① 授業後に児童生徒へ一斉に実施する。
- ② 期間を決めて、不特定多数（又は特定）の人に、空いた時間を利用して入力してもらう。
- ③ 期間を決めて、特定の人に電子メールで入力を依頼して実施する。

コラム

《「食育」の充実の意義について》

近年、食生活を取り巻く社会環境が大きく変化し、子どもの食生活や健康状態の様々な問題が指摘されています。国民栄養調査によれば、子どもだけで食事を摂る孤食や朝食欠食の割合が増加しているとともに、肥満傾向（性別・年齢別・身長別の平均体重を20%以上超過）や、痩身傾向（平均体重の80%以下）の児童の割合も増加しています。さらに、生活習慣病のリスクファクターの悪化、アレルギーを持つ子どもの増加などが指摘され、健全な食習慣を形成するために学校における「食育」（食に関する指導）の充実が望まれています。

「食育」では、①栄養や食事のとり方、②食品を選択する力、③食を自己管理できる能力の育成が重要です。これらの指導は、単に望ましい食習慣のための知識を身につけるだけでなく、食卓での一家団らんを通じて社会性を育んだり、わが国の食文化を理解したりすることも含んでいます。

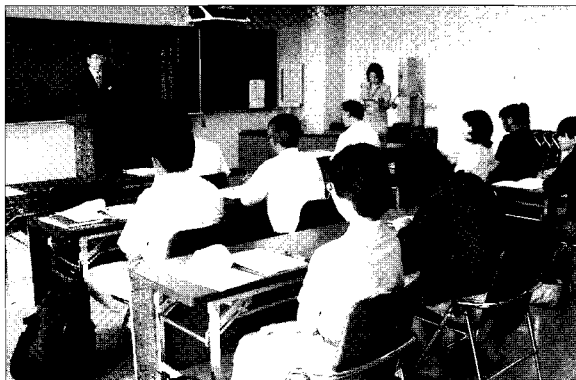
学校における「食育」は、給食の時間、家庭科や保健体育科等の教科指導の時間の中で行うことが考えられます。例えば、学校給食を「生きた教材」と考え、児童生徒の栄養改善というだけでなく、実際にそれを食べることを通じて食について体験しつつ学ぶことができます。校長のリーダーシップのもと、食の専門家である「栄養教諭」が専門性を生かしながら、すべての教職員が「食育」の重要性を認識し、学校教育活動全体で取り組みを進めることが求められています。

《参考：庄司正人「文部科学省における食育の推進」（『教職研修』2003年12月号、教育開発研究所）》

教育センターひろば

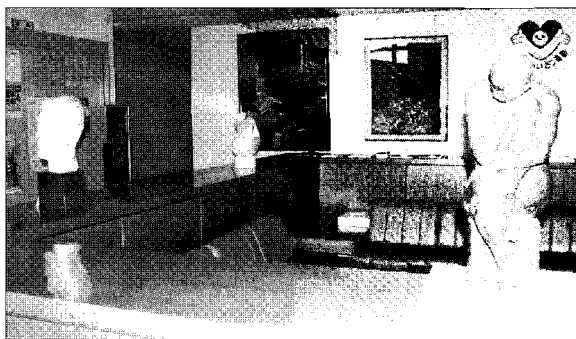
【センターこの1年】

教育研究活動の支援



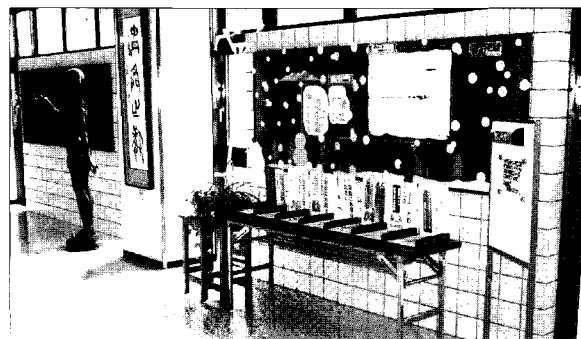
教育センターでは、小グループでの研究活動の奨励事業を行っております。本年度は、11グループが事業に参加されました。(グループ名等については「所報77号」を参照してください)「大学の先生に指導していただくときの謝金や、研究を深めるための図書や教材などの購入に当てることができ、とても助かります。」「教育センターの指導主事にアドバイスしてもらったり、資料を送ってもらったりしたので、研究をさらに進めることができました。」という声をいただいています。研究成果は、報告書にまとめ、2月中旬に提出されますので、3月末頃に、内部 Web ページで公開する予定です。

館内作品展示



広島市立学校の教職員の作品(絵画、写真、書、彫刻、工芸)を館内に展示しています。教育センターを利用される際に、ぜひご鑑賞ください。展示にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

ロビー展示の紹介など



教育センターに関する“ホット”な情報、そして教育に関する“旬”の情報などを、季節の風物詩とともに展示しています。展示内容に関するリーフレットコーナーも併設しています。ご来所の際は、ぜひご覧ください。

教養講座の紹介



12月2日に、俳優の常田富士男さんに「へのへの謎」と題してご講演いただきました。3月まで内部 Web ページで閲覧が可能です。

人事異動のお知らせ

吉竹邦昭次長が、1月1日付で中筋小学校に転任となりました。

編集後記

今年度も、一か月余りとなりました。P-D-C-Aのサイクルの中で、様々な活動を振り返り、更なる向上を目指した改善を凶る時期です。来年度への見通しをもち、協働的な活動ができるよう十分な準備・計画をしていきたいものです。

広X6-2004-17(3)

題字 「所報」
広島市立美鈴が丘高等学校教諭 植村 正巳
表紙絵 「ひろしま」
広島市立川内小学校校長 清見 嘉文

編集・発行／広島市教育センター
〒732-0068 広島市東区牛田新町一丁目17番1号
TEL(082)223-3563 FAX(082)223-3580
E-mail: center@center.educity.hiroshima.jp
外部 Web ページ: <http://www.center.educity.hiroshima.jp/>
内部 Web ページ: <http://192.168.6.10/>